

「データプロジェクト(モビリティチーム)」における取り組み報告

【名古屋大学教育学部附属中・高等学校 都丸 希和】

本校では、授業後の生徒の活動として研究プロジェクト活動を行っています。私はその中で「データプロジェクト」の顧問を務めており、生徒たちはチームを組み、データに基づいた検証を行いながら、課題解決策の提案に取り組んでいます。

特に地域課題に着目するチームでは、対象となる地域を具体的に設定した上で、解決に向けたアイデアを検討しています。生徒たちの提案を見ていく中で、地域課題解決の一つの切り口としてモビリティの利活用が重要であると気づきました。モビリティは、現在地域に暮らす人々の生活を支えるだけでなく、交流人口の増加を促すきっかけにもなり得るなど、その活用方法は多岐にわたります。

そこでデータプロジェクト内に、「モビリティチーム」を立ち上げました。地域の未来を考えていく上で、生徒たちは日々夢中でモビリティの利活用について話し合っています。

【生徒の活動例】

1 クルマ社会から鉄道社会へ！「どら速え〜くすプレス」と「どらスイスイ」で変える地球にやさしい移動の常識

自動車産業の集積地である愛知県豊田市は、名古屋市との間で流入・流出人口がともに多い地域です。しかし、両都市間の移動手段は主に自動車に依存しているのが現状です。その理由として、鉄道は普通列車(各駅停車)のみが運行されており、移動に時間がかかることが挙げられます。一方で、将来的な二酸化炭素排出量の削減を考えると、より多くの人々が電車による移動を選択できる環境を整える必要があります。

そこで、既存のダイヤを基に新たに特急列車のダイヤを設定し、名古屋と豊田を結ぶ特急列車「どら速え〜エクスプレス」を考えました。さらに、豊田市駅から各企業までの移動、いわゆるラストワンマイルを支えるモビリティとして電動キックボード「どらスイスイ」を提案します。

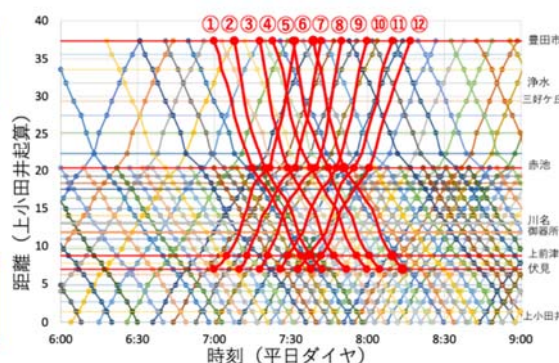
提案1：急行列車

実際のダイヤから急行列車の運行ダイヤを試算

通勤・通学時に
12本の急行が運行可能！

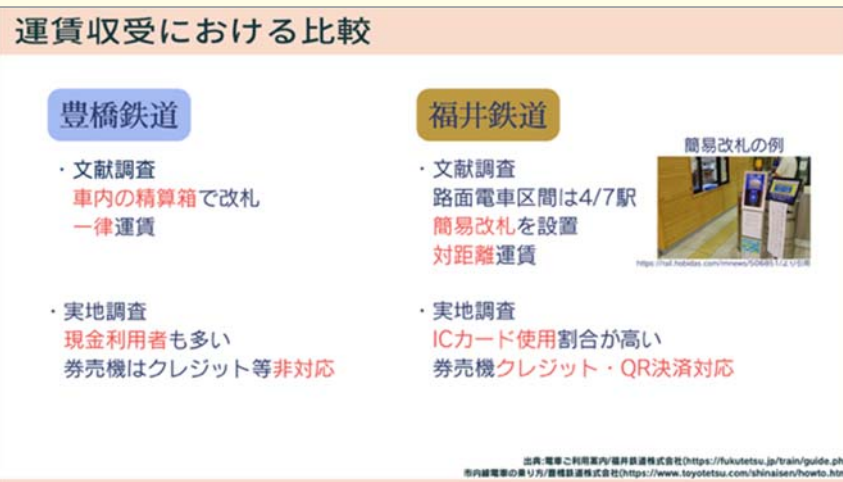


上り15分・下り19分短縮！
既存のダイヤはほぼ変えず



2 trampoline! 豊橋の路面電車をルネッサンス！未来を拓く四本柱

新たなモビリティの導入に伴い、廃止が相次ぐ路面電車に着目し、豊橋市の路面電車を高齢化社会に適応させつつ、日常利用の促進と地域経済の活性化を同時に実現する方策を提案しました。高齢者向けデジタル乗車券「Silver Pass」や歩数連動ポイント制度により日常利用を促進し、地元企業と連携した企画電車や季節限定ラッピング、アニメ・YouTuber とのコラボによって認知度向上と観光需要の喚起を図ることを考えています。さらに、高床ホームとスロープによる段階的バリアフリー化や架線レス化を進め、補助金や広告収入、ふるさと納税を活用して財源を確保することで、持続可能な路面電車運行の一案を示しました。また、このチームは交通エコロジー・モビリティ財団様からの助成により豊橋だけでなく、比較対象として福井への現地視察も可能となり、研究を深化させる貴重な経験をさせて頂きました。この場をお借りして、御礼申し上げます。



3 「SEKETTA」でまわるやきもののまち 瀬戸市×自転車

愛知県瀬戸市の瀬戸駅周辺は、細い道や一方通行の道路が多い地域です。道路環境を踏まえ、小回りが利くという高い自由度に着目し、電動アシスト自転車は瀬戸市内の移動手段として最適であると考え、瀬戸+ケッタ(名古屋弁で自転車のこと)を組み合わせた「SEKETTA」の導入を提案しました。また、日帰り旅行者が多い瀬戸市では、観光客の荷物が比較的少ない点も考慮できます。さらに、免許が不要であり、操作や利用方法が分かりやすいことから、言語の壁が低く、外国人観光客を呼び込むきっかけになると考えました。また、コストについての試算と解決案を考えました。

